

今回「生理活性物質探索病態解析分野」に4週間配属させていただくこととなった。初日に研究室配属の意義について考える時間があった。実習を終えて、研究医になりたいと思えたかといえば、やはりまだ臨床の方に興味がある。しかしこの実習では臨床の話も聞けて、また今まで基礎科目で行った実習とつながる内容が多くあり有意義な実習となったのは確かだと思う。

細胞の継代や電気泳動、PCRなど基本的な実習を中心に行った。クリーンベンチでの作業やピペットの操作など、2年次での実習でやったことはあったが同じ班の人に任せることが少なくなく、初日は継代が初めてだったこともあり緊張した。言われたこと、今自分がしている作業をするのが精一杯で、次何をするか、どうしたら快適に作業ができるのか考える余裕などなかった。これからの実習に不安が残った、そんな初日だった。回数を重ねるごとに自分の心に余裕が現れ、スムーズに作業を行えるようになり、何かおかしいところがあればそれに気づけるようになった。実習を終えた今は基本的な操作ではあるが自信をもって実験を行えると思う。

私は目の前にある答えを特に疑問をもたず鵜呑みしてしまう傾向がある方だ。今までの実習も配られたプロトコール通りにこなせばよく、なぜこのような操作があるのか、この過程にはどんな意味があるのか疑問をもつことはなかった。自発的なものは少なかったかもしれないが先生から多く質問があったためこの4週間で考える機会が多くあり、初めのころは言葉を詰まらせることばかりだったが、実習を重ねるにつれ少しずつ答えられることも多くなった。考え方が身に着けば、目的から逆算して物事を考えることができ、それに向けて準備することもできる。日頃の学習でも疑問をもち、考える習慣を身に着けひとつひとつ理解するよう心掛けたい

先生も仰っていましたようにこの配属の後に生化学などの実習を行えばもっと実りのある実習を行えたのかなと思います。最後になりますが、4週間の間お忙しい中丁寧にご指導いただきありがとうございました。